

第4章 史跡下野谷遺跡整備の理念と方針

1. 『史跡下野谷遺跡保存活用計画』に示した考え方

「縄文から未来へ したのやから世界へ」

史跡の保護では、国民共有の財産である史跡の本質的価値を構成する要素を保存し未来に継承することが重要です。加えて、その多様な価値や魅力を顕在化して広く社会に示し、現代につながり文化や人の心を豊かにし、また、史跡を核とした地域活性化や地域連携を推進することも重要です。これらの活動の中で遺跡保護の意識が高まり、貴重な文化遺産として愛され、守られていく史跡へと成長していきます。

史跡下野谷遺跡においては、縄文時代中期のムラ、その中で育まれた縄文文化や縄文の知恵、人や社会のつながり、それらを支えた立地やみどりなどの環境を未来に継承することが求められます。

また、下野谷遺跡は都市部に残された貴重な遺跡であり、遺跡の価値評価や保護活用には地域住民をはじめとした多くの人々が積極的に参加しており、今後も人やまちとともに成長する遺跡となることが期待されます。都市部における遺跡の保存や整備には、住宅密集地であるため課題もある一方で、人口の多さは多様な興味、関心を持つ人々の存在や、遺跡と関わる人の多さにつながる可能性があります。また、遺跡への国内外からのアクセスの良さ、研究機関や商業施設等が周辺に多く存在する立地などは、遺跡の活用において大きなメリットとなります。

史跡下野谷遺跡は、都市部にある遺跡をどのように保存、活用、整備していくかといった課題や方法などを考える「都市型の遺跡保護*」のモデルとなりうる史跡です。

これらのことを踏まえ、保存活用計画では、保存と活用のコンセプトを「縄文から未来へ したのやから世界へ」としています。さらに、下野谷遺跡が目指すべき5つの将来像を提示し、その実現のためには「保存」「活用」「整備」が歯車のようにかみ合う必要があることを述べています（第1章に前掲）。

本章では、整備のテーマを設定した上で、5つの将来像の実現に向けた整備の理念と方針をまとめ、次章において整備の具体的な方法の詳細を示します。

2. 整備のテーマと理念・方針

「みんなで作る、つなげる都市部の縄文空間」

史跡の整備は、史跡の本質的価値の確実な保存と継承とを軸にした上で、遺跡に特有の価値や状況に合わせて考えていく必要があります。

下野谷遺跡の場合、前述のように、地域の拠点となる大集落の全域が都市部に残されていることが価値の一つであり、それが多くの人の手で残され、活用されてきたことが更なる価値であると考えられます。そのため、まずは縄文時代の典型的な集落の復元を目指します。

拠点集落は、縄文人が長期にわたり、自然に手を加え、集落だけでなく、周囲の環境も生活に適したものに作り変えていった結果です。このように縄文人が生活のために、手を加えて作り上げた環境を「縄文里山*」と呼ぶことがあります。下野谷遺跡の整備では、都市の生活と共存した形で、縄文の集落生態系*「縄文空間（縄文里山）」を復元することを目指します。縄文のムラと自然をつなぐものが「里山」であり、史跡と現代社会をつなぐものが「まち」という考え方で、これらの整備を行っていきます。自然と共存した持続可能な生態系の復元は、地域住民の憩いの場ともなります。



下野谷遺跡の集落想像図（「VR 下野谷縄文ミュージアム」より）

また、積極的な活動が市民の手によって行われてきていることも価値の一つであり、整備の重要な要素となります。都市部におけるメリットである、関われる人の多さを活かすためには、整備に関わる情報を積極的に発信、共有し、常に人々が関わっていることが必要です。縄文時代に縄文人が集い、多くの人の手で作り上げた縄文空間（縄文里山）を、現代に多くの人の手でもう一度作り上げるとする考えのもと、市民が主役となる整備・活用を推進していきます。

具体的には、造成などの基盤整備は行政が行いますが、それと並行して市民が整備や活動のアイデアを出し合い、竪穴住居の一部などの建築復元を行うなど、新たな人のつながりをつくるとともに、史跡を育て、未来につなげていきます。

さらに、遺跡へのアクセスの良さを活かし、都市部では味わうことの難しい縄文空間（縄文里山）を形成することで、人を呼び込み、まちのさらなる賑わいの創出にもつながる整備を行います。

そこで、整備のテーマを「**みんなでつくる、つなげる都市部の縄文空間**」とし、下野谷遺跡で最も住居跡が多く見つかっている縄文時代中期の一時点での西集落の縄文空間（縄文里山）を多くの人の関わりの中で整備していきます。

整備により史跡を確実に保護し、またともに整備を行うことや整備地を活用した事業を通して、史跡の本質的価値を未来につなぎ、広く世界へも発信するキーステーションとしていくことを目指していきます。

以下に、保存活用計画で示した5つの将来像を確実に実現していくための整備の理念と方針を提示し、それが第5章のどの計画で主に実行されていくかをまとめます。



図 20 縄文空間(里山)と整備イメージ図



